

原発〇にむかって

ゼロ

2012年1月26日 No.9

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel：03-5978-2741 fax：03-5978-2865 mail：sien@tokyominiren.gr.jp

郡山の看護支援を体験して



「福島の病院で看護師の冬季休暇が取れてないから支援に行っていて欲しい」との依頼を受け、1月4日～18日桑野協立病院に看護支援に行かせていただきました。同じ時期に山口民医連からも看護支援に来ていました。福島の人にはスタッフも患者さんも温かく迎えてくれました。「東京から来た」と話すと「被爆しないよう気をつけてな」と声をかけてくれる患者さんや、「とにかく子どものことが心配。震災の翌日からガソリンが手に入らなくて子どもと一緒に外で1時間も並んだ」というスタッフの声も。親として悔やんでいる様子が手に取れました。短期間でも避難すると良いとのことですが、林間学校と称して受入れているところは有料、子どもを親に預けるにしても生活があるため困難と、厳しい現実があります。「避難することは移住すること

と。郡山市だけでも1万人もいる」と桑野協立病院の院長からの話を聞きました。

私は一般病棟での処置・ケア、体の清拭や入浴介助、食事介助、点滴や経管栄養の準備を主に行いました。私に加わることで、誰かが休みをとれて頑張ろうと思えるなら、と微力ですが一緒に働いてきました。期間中全国から果物や野菜・もち米など物資の支援が続々あり、全国の民医連のつながりと励ましを感じました。一緒に支援に参加した看護師とも仲良くなり「人ごとに思っていたけど、目の当たりにしてみても辛さやジレンマを共感できた」と振り返ることができました。東京に戻り自分に何が出来るのか再び考える日々です。

(健友会 松村恵美子)

脱原発訴えて 「さようなら原発中山道ウォーク」

1月22日(日)、「さようなら原発 中山道ウォーク」が行われました。300人の参加で、小豆沢病院近くの見次公園から板橋区役所までの約3キロを1時間半歩きました。

板橋では9月に高島平、11月に成増でも脱原発デモが取り組まれて多くの人が参加しています。その流れで志村地域でもやろうとの声で取り組まれました。小豆沢病院の井上院長や「さようなら原発 1000万人アクション」の活動にかかわっている人、宗教家などこれまでの枠の囚われない様々な分野の人々が呼びかけ人となって実行委員会を作ったの運動になりました。当日呼びかけ人の一人としてあいさつをした井上院長が「放射能は目に見えないもの、アスベストと同じであとから様々な疾患や障害となって出てくる。検診など健康管理が大事でその面でも医療機関として役割を果たしたい」と述べ地域で健康を守る決意に大きな拍手が寄せられました。

(健康文化会 組織部 原田)



【訂正のお願い】 No.8 (東京保健生協) 誤：「2台の放射線測定器」 → 正：「1台の放射線測定器」

2012/2/4 (土) 3:00-5:50 「原発〇にむかって」学習会

TKP 東京駅日本橋
ビジネスセンター

「低線量被ばくの被害」小西恭司 (全日本民医連緊急被曝事故対策本部長)・「福島の農業被害」根本敬 (福島県農民連事務局長)